

図書館だより



愛知県みずほ大学瑞穂高等学校
瀬木学園図書館
第120号
2018年10月15日
平成30年度 第3号

10月27日～11月9日は読書週間です。



ブックリサイクル開催！

読書週間にちなんで、図書館ではブックリサイクルを行います。古くなった本、複数所蔵している本、家庭で不要になった本をリサイクル本として、活用したい方に提供する活動です。欲しい本が見つかったらお持ち帰りください。一日3冊まで、最終日は制限なしです。来館をお待ちしています。

場所：瀬木学園図書館

日時：10月29日(月)～11月9日(金)

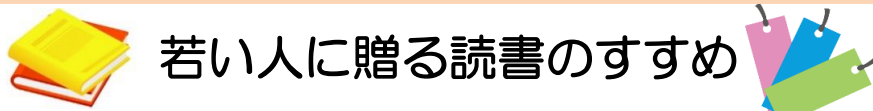


読書週間の歴史

終戦まもない昭和22年、まだ戦火の傷痕が残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日と定められ、全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。

(公益社団法人読書推進運動協議会HP)



若い人に贈る読書のすすめ

「若い人に贈る読書のすすめ」は、新たな人生の一步を踏み出す若い人に読んでもらいたい本を紹介する運動です。

『知らなかった、ぼくらの戦争』
ピナード編著 (210.75/ピ)



アメリカ出身の詩人ピナード氏が、日本人の太平洋戦争体験者たちを訪ね歩き、戦争の実態と、個人が争いから“生き延びる知恵”を探ります。

『危機の現場に立つ』
中満泉著 (329.33/ナ)



死と隣り合わせの現場で不条理な現実と、どう闘ってきたのか。国際協力の現場を目指す人に有意義なメッセージが詰まった一冊です。

『かがみの孤城』
辻村深月著 (913.6/ツ)



鏡の世界に入り込んだ不登校の少女が、胸に秘めた願いを叶えていく話です。一気読み必至の著者が、生きづらさを感じているすべての人に贈る物語です。

『ヒーロー』
レーブ著 (943.7/レ)



崩壊寸前の家族が、家族とは何なのか、どう向き合えばいいのかを追究していきます。それぞれの視点でユーモアに語られる心に響く「ある家族の物語」です。

『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎著 (159.5/ヨ)

『「どうせ無理」と思っている君へ』 植松努著 (159.7/ウ)

『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』 山中伸弥著 (159.7/ヤ)

『宗教ってなんだろう?』 島藺進著 (160/シ)

『大人のための社会科』 島藺進著 (161/シ)

『イラストで学ぶスタディスキル図鑑』 ヴォーダマン著 (379.7/ウ)

『星に願いを、そして手を。』 青羽悠著 (913.6/ア)

『孤独論』 田中慎弥著 (914.6/タ)



本の虫の豆知識&クイズ 第3問

10月13日はサツマイモの日です。煮ても焼いても蒸かしても、お菓子にしてもおいしいサツマイモ。焼き立てホクホク系をかぶりつくイメージが大きいと思われませんが、最近ではネットリ系に一度火を通してから冷やして食べるのが人気だとか。皆さんはどんな食べ方が好きですか？サツマイモのおいしい季節です。食べ比べてみるのもいいかもしれませんね。

さて、サツマイモはアントシアニン色素が多量に含まれているため皮の色が紫色になっています。アントシアニン色素にはどのような機能があるのかを、図書館の本を使って2つ抜き出してください。表記が異なる場合がありますが、きちんと本から抜き出してあれば正解です。

※第2問の解答提出期限は、11月30日(金)です。解答用紙は、図書館カウンターに用意してあります。不明な点は図書館員におたずねください。

※前回の答えは「革命の序曲となった」又は「大革命の序曲だった」です。「となった」「だった」は書いていなくても正解とします。

